

令和7年 9月11日発行



# 五小だより

学校だより 臨時号  
東久留米市立第五小学校  
校長 古矢 美雪

## 令和7年度 学力調査結果について

残暑が厳しい日々が続いています。保護者の皆様におかれましては、お健やかに過ごしのことと存じます。日頃より、本校の教育活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

さて、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果が届きましたので、お知らせいたします。東久留米市のホームページからもご覧になれますので、あわせてご覧いただけましたら幸いです。

### 【国語】

どの項目においても、本校平均正答率が、全国平均正答率より上回っています。特に、『C 読むこと』については、全国平均よりも6.9%上回っています。これは、本校での国語の研究で読むことについて2年間扱ってきた成果が要因として表れていると考えられます。

一方で、「A 話すこと・聞くこと」は、全国平均正答率は上回っていますが、東京都平均正答率を下回っています。目的や意図に応じて、集めた情報を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にする力をさらにつけていく必要があります。そのため、事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを発表する活動を取り入れ、伝えたいことを明確にする力を育てていけるようにします。

分類	区分	平均正答率(%)			
		本校	東京都(公立)	全国(公立)	
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	80.7	77.9	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	68.1	66.9	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.8	83.8	81.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	69.4	69.9	66.3
		B 書くこと	72.5	72.4	69.5
		C 読むこと	64.4	61	57.5
評価の観点	知識・技能	78.3	76.6	74.5	
	思考・判断・表現	68.3	67.1	63.8	

### 【算数】

どの項目も、本校正答率が全国平均正答率より上回っています。特に、「D データの活用」については、全国平均正答率より4.6%上回っています。目的に応じたデータの収集や分類整理、表やグラフの選択など、一連の統計的な問題解決ができるようになることや、結論について多面的に捉え考察できる力が身に付いていると言えます。

一方で、「C 変化と関係」については東京都の平均正答率より下回っています。測定といった算数的思考でも基本的な内容に関する内容であるため、改めて測定の概念に構成する要素に着目し、性質を見出すとともに、測定の仕方やその性質を見出し論理的に説明したり、それを基に既習の基本的な分量を捉え直したり日常の事象の考察に活かしたりする活動を通して、性質や計量について考察する力を養うように指導していきます。

分類	区分	平均正答率(%)		
		本校	東京都(公立)	全国(公立)
学習指導要領 の領域	A 数と計算	66.1	68.3	62.3
	B 図形	61.5	61.2	56.2
	C 変化と関係	56.9	60.5	54.8
	D データの活用	66	67.6	62.6
評価の観点	知識・技能	69	70.9	65.5
	思考・判断・表現	51.8	54.5	48.3

[算数編]小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 p.233

### 【理科】

どの項目も、本校正答率が全国平均正答率より上回っています。特に、「D地球を柱とする領域」では、身の回りの環境や自然に興味を示していて、その知識がよく身に付いていることが分かります。本校では数年前に理科の研究発表を行いました。その際に、地域資源の活用についても研究を行いました。落合川をはじめとして、地域から学べる教材として今後も、大いに学習に活用していきます。

一方で、「C エネルギーを柱とする領域」については東京都の平均正答率より下回っています。エネルギーの領域にかんしては、身近に触れることができなかつたり、視覚として捉えることが難しかったりするため、認識や理解が難しいと考えられます。授業改善の視点からは、学習過程や、単元計画の工夫の中に身近な具体物を取り入れるなどを行っています。

分類	区分	平均正答率(%)		
		本校	東京都(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	A エネルギーを柱とする領域	49.7	49.9	46.7
	B 粒子を柱とする領域	57.2	53.7	51.4
	C 生命を柱とする領域	57.6	54.1	52
	D 地球を柱とする領域	73	69.1	66.7
評価の観点	知識・技能	61.2	57.5	55.3
	思考・判断・表現	63.7	61.2	58.7

## 【児童質問紙調査】

児童質問紙調査では、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査が行われました。

【設問】 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。（単位：％）				
①…当てはまる ②…どちらかといえば、当てはまる ③…どちらかといえば、当てはまらない ④…当てはまらない				
	①	②	③	④
本校	32.4	44.4	17.6	5.6
全国	26.8	41.8	22.7	7
東京都	32.7	40.7	19.5	5.5

本校の児童は、課題解決に関しての意識は高いものがあります。その要因としては、数年前に行った研究発表では、自ら課題を設定することを、授業計画の中で取り入れてきました。今後も、学習過程の中に自ら課題を設定する時間を設けることで、主体的に学習に取り組める態度を育てていきます。

【設問】 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。（単位：％）				
①…当てはまる ②…どちらかといえば、当てはまる ③…どちらかといえば、当てはまらない ④…当てはまらない				
	①	②	③	④
本校	42.3	40.1	14.1	3.5
全国	40.9	44	11.5	2.7
東京都	42.1	42.6	11.3	3

本校の児童は、学び合いに関しての意識は高いものがあります。その要因としては、校内研究を中心に日常の授業の場面で、話し合う時間を必ず取り入れたことが考えられます。今後も、授業の中に話し合いの時間を設けることで、自分とは違った考えを受け入れたり、気が付いたりする経験を、さらに積ませていきます。

## 【児童質問紙調査結果の全体を通して】

質問の項目として、『毎日朝ごはんを食べていますか。』『自分にはよいところがありますか。』『毎日同じ時間に寝ていますか。』などといった生活や自分自身に関わる項目もあります。それらの項目についての解答は、『①当てはまる。』と解答した児童が非常に多く、教科と同じく全国平均を上回っています。学びに向かうためには、心と身体の安定は必須です。万全な環境をご家庭で整えてくださっているのが、よくうかがえる結果で、有難いと思っております。引き続き、学校へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

(児童質問紙調査の結果については、一部抜粋を行っています。)

## 【個人票について】

個人票を返却いたします。個人票には、問題の正答数だけでなく、全国正答率、学習した学年、学習指導要領における領域、問題の形式が記載されています。得点だけに目を向けるのではなく、間違えた問題の領域や観点などを振り返り、見直しをしておくことが大切と子供たちにも話しました。